

公的年金のリスク活用型運用への転換と証券市場

白杵政治（名古屋市立大学）

2013 年末の有識者会議報告を契機に、公的年金の運用改革は成長戦略の柱の一つとして推進されてきた。例えば、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）では、2014 年 10 月に内外株式への配分が 50%に増加するよう、基本ポートフォリオ（政策アセットミックス）を変更しただけでなく、代替資産など運用対象の多様化、スマートベータや JPX400 など新たな市場インデクスの採用、といった改革が継続的に進行してきた。さらに本年 10 月からの民間・公務員の被用者年金一元化に備え、公務員共済年金などでも同様の動きが広がっている。本報告ではこれらの改革の内容を説明・評価した上で、①年金財政への影響、②ホームカンントリーバイアス、③規模の不経済、④コーポレートガバナンスへの影響、などの課題について議論していく。